

特別支援学級におけるアンケート調査の報告

～お口の健康と食習慣について～

練馬区学校歯科医会 学術委員会

西村 滋美

特別支援学級で起きた 痛ましい事故

- 平成25年6月27日 札幌市立小学校
- 特別支援学級2年生の男の子がプラムの種を喉に詰まらせて息が止まりそうだと119番通報
- 救急隊到着時には意識・呼吸は無く、搬送先の病院で死亡確認
- 死因は窒息死

練馬区特別支援学級歯科健診結果 ～全国平均との比較～

平成24年度

	小学校（全国平均）	中学校（全国平均）
う蝕処置完了者（％）	29.9（28.4）	24.8 （25.6）
未処置歯のある者（％）	18.4（27.4）	23.6 （20.0）
歯周疾患（％）	5.6 （2.1）	29.2 （4.3）
歯列咬合の異常（％）	2.9（4.4）	13.7 （4.8）

アンケート内容【歯みがきについて】

1. 1日何回、いつ歯磨きするか？
2. 誰が磨くか？
3. 歯ブラシ以外に使うものはあるか？
4. うがいはできるか？
5. お子さんの口の健康について困っていること
6. かかりつけの歯科医院はあるか、いつ行くか？

アンケート内容【食生活について】

1. 起床時間、就寝時間
2. 朝食は食べるか？最も多い主食は？
3. 朝の水分摂取は？何を飲むか？
4. 就寝前の水分摂取は？何を飲むか？
5. 帰宅後おやつは食べるか？その内容は？
6. 夕食は家族の大人と一緒に食べるか？
7. 食事で困っていることはあるか？その内容は？
8. 食事の食形態は？水分にトロミはつけるか？

対象者：練馬区内の特別支援学級の児童・生徒
【アンケート回答率】

51.0% (478名中 **244名**回答)

小学校 男子 124/225 = 55.1%

女子 33/ 77 = 42.9%

中学校 男子 50/109 = 45.9%

女子 37/ 67 = 55.2%

【学年別人数】

小学校低学年 70名 (1年:27名 2年:18名 3年:25名)

小学校高学年 87名 (4年:31名 5年:30名 6年:26名)

中学校 87名 (1年:25名 2年:33名 3年:29名)

図1-1 1日何回磨くか

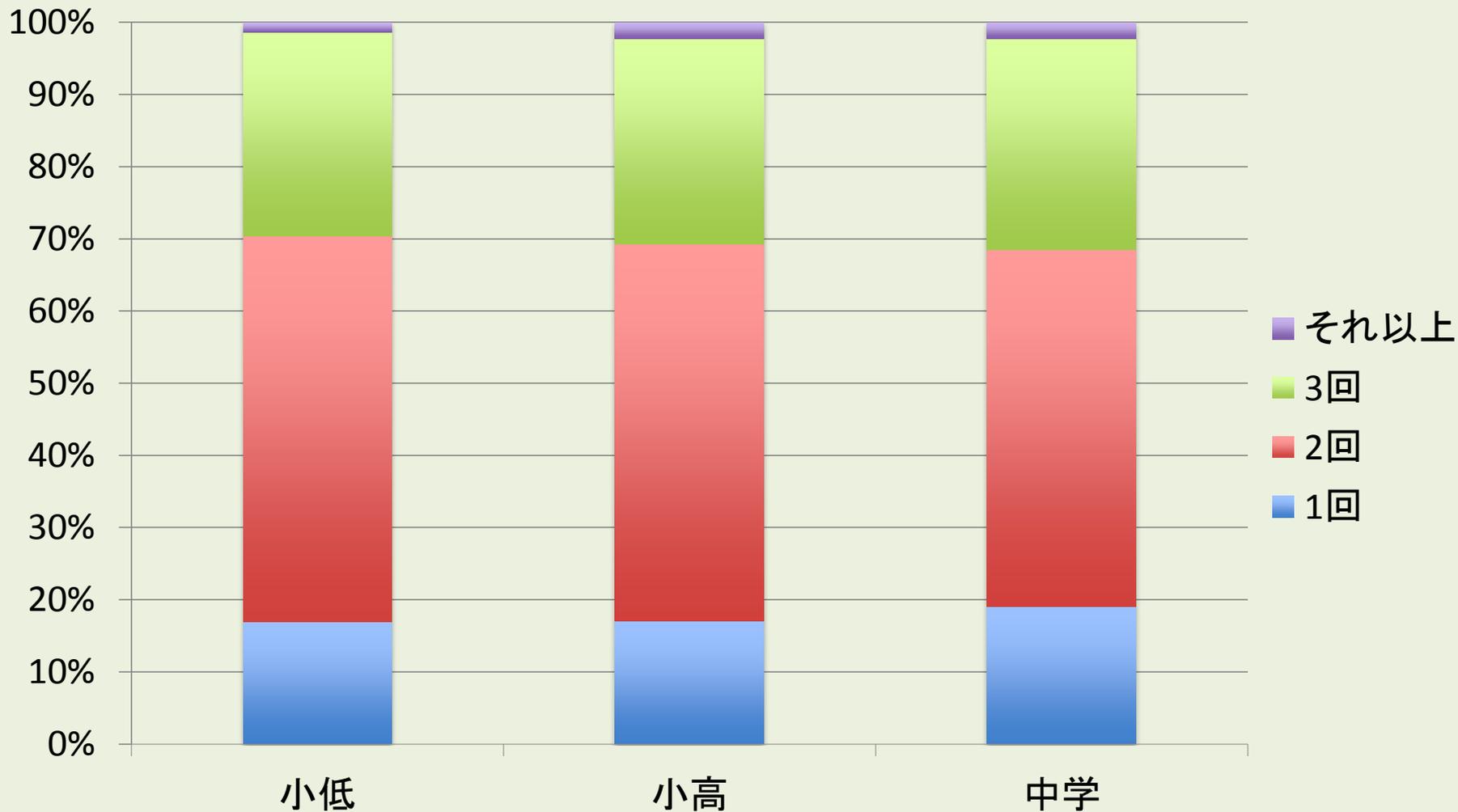


図1-2 いつ磨くか

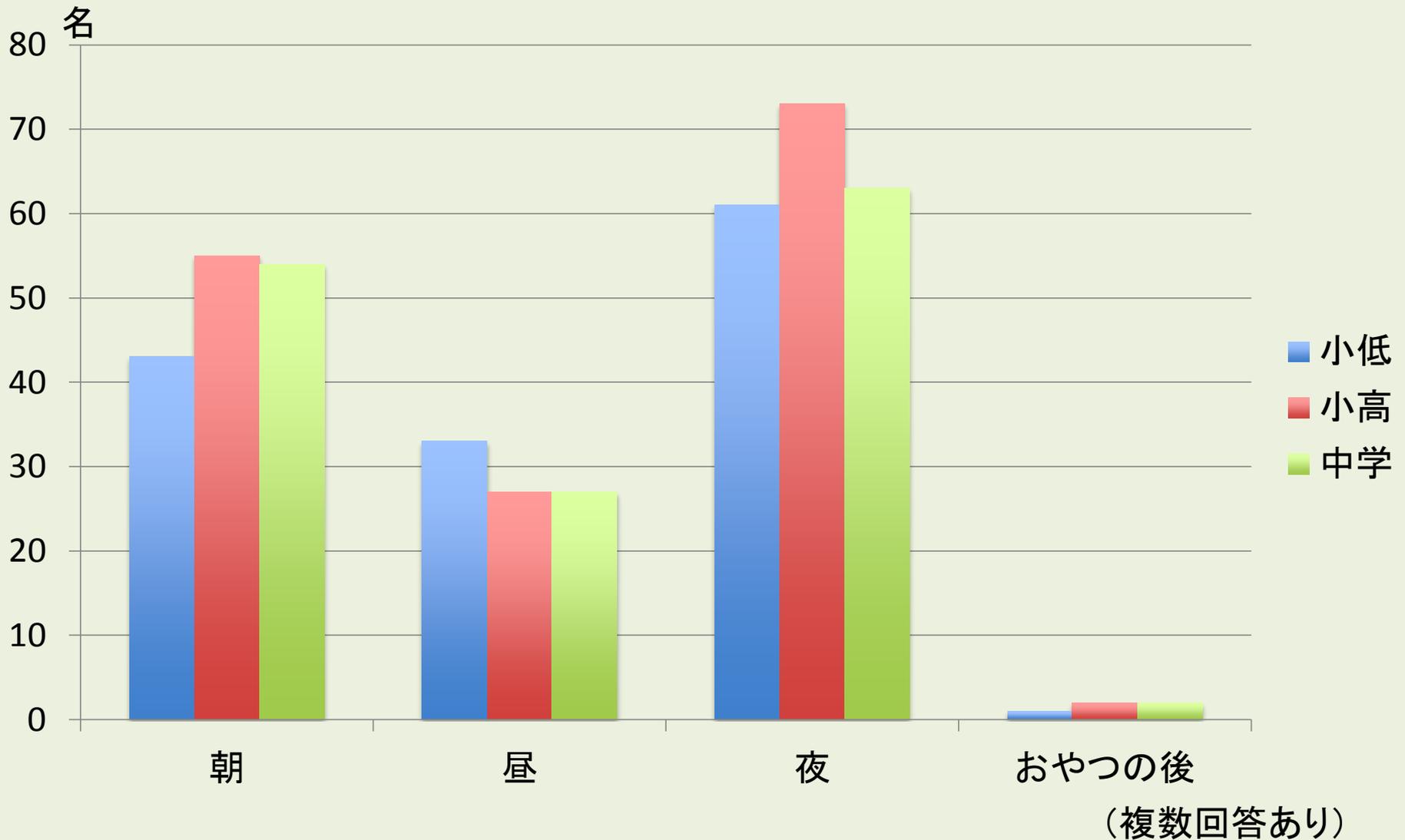


図2 誰が磨くか

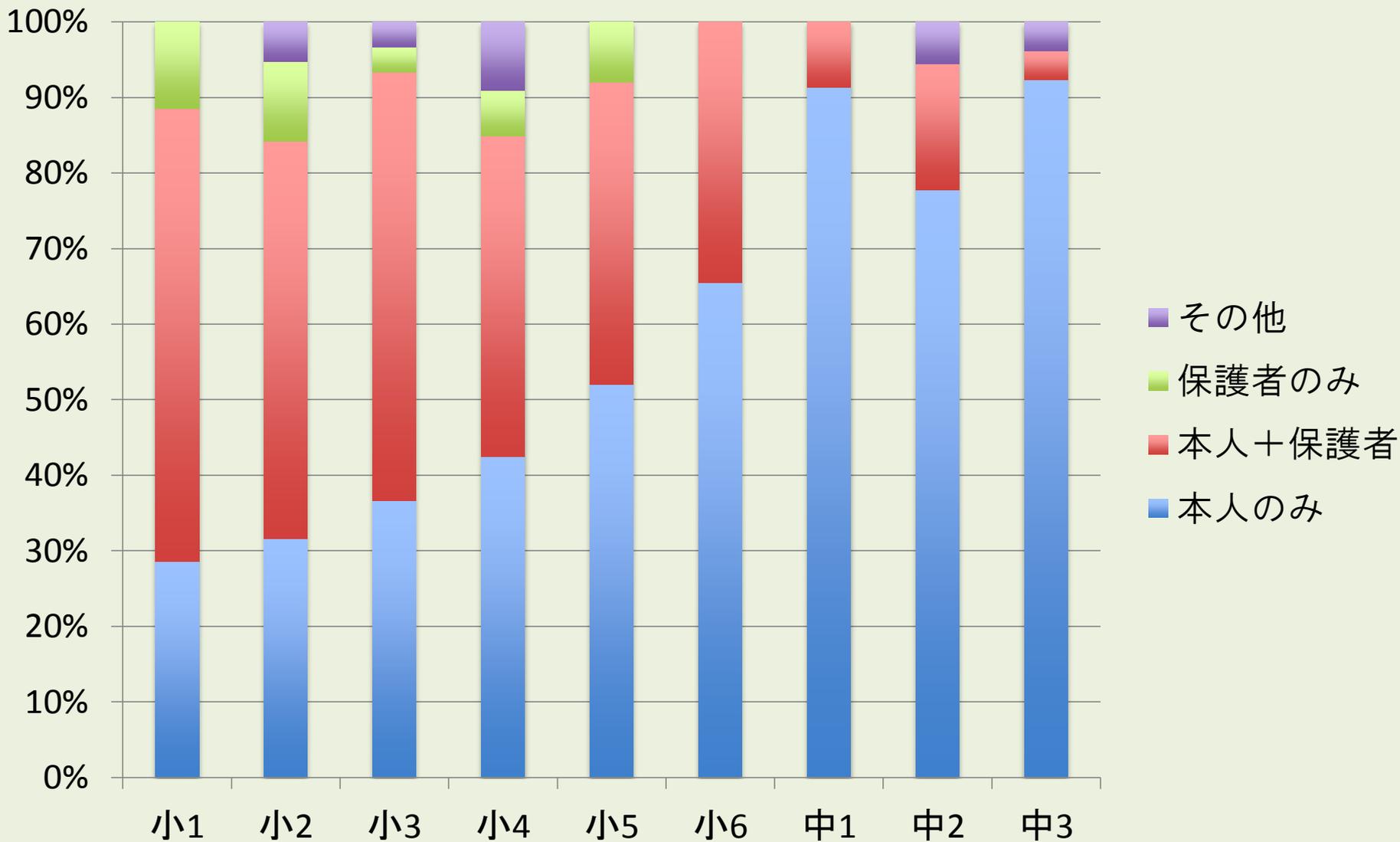


図3 歯ブラシ以外に使うもの

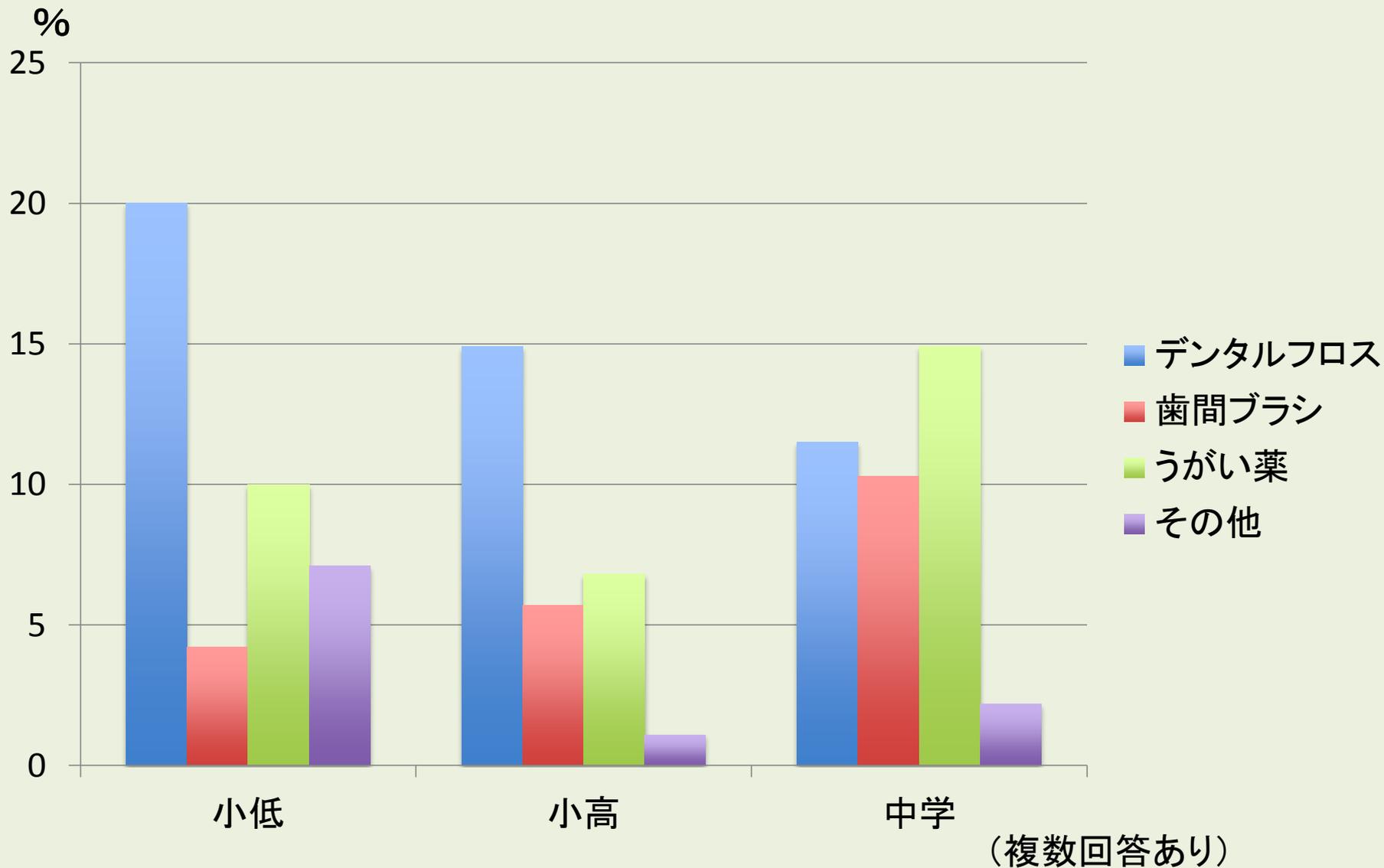


図4 うがいについて

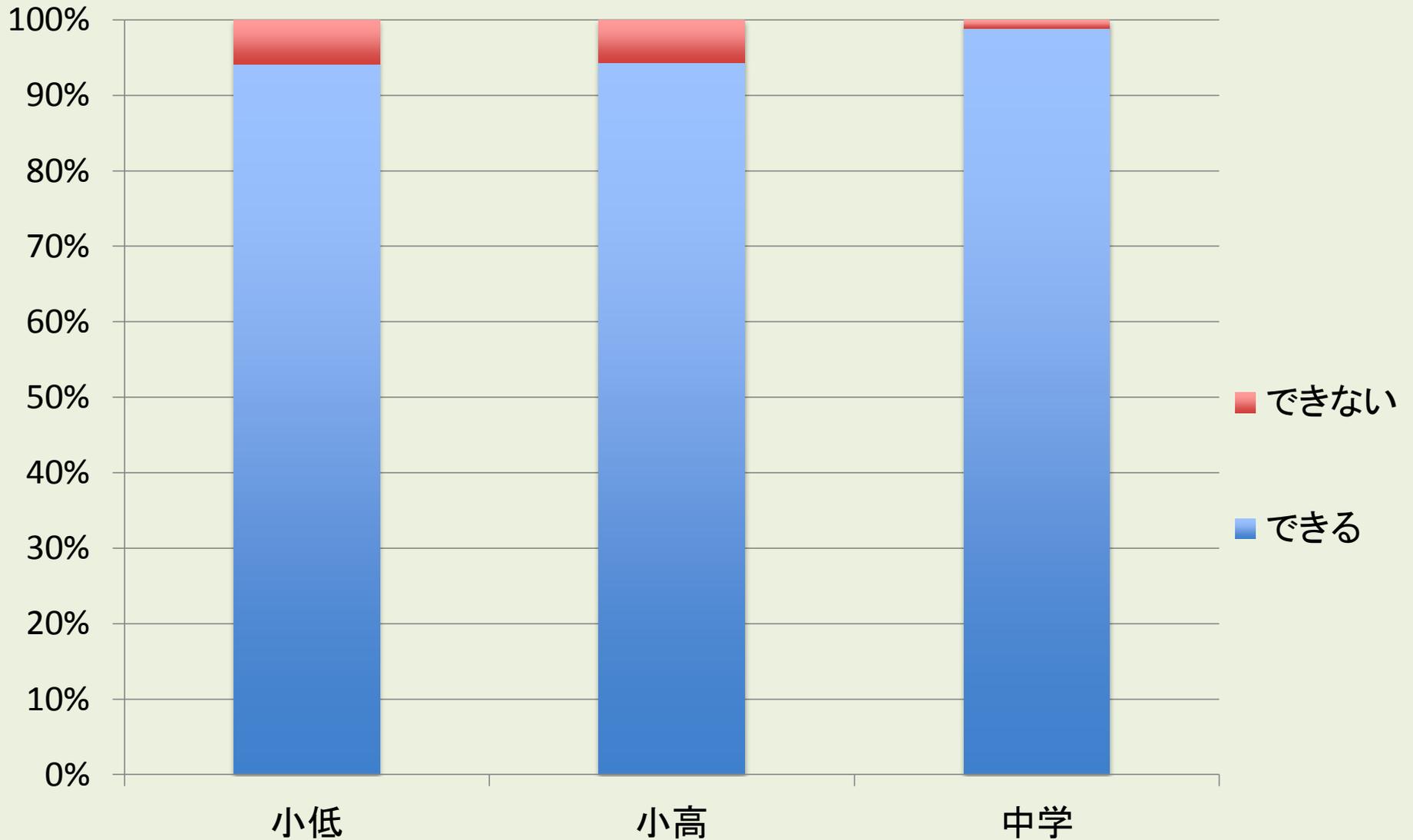


図5-1 お口の健康について 困っていること

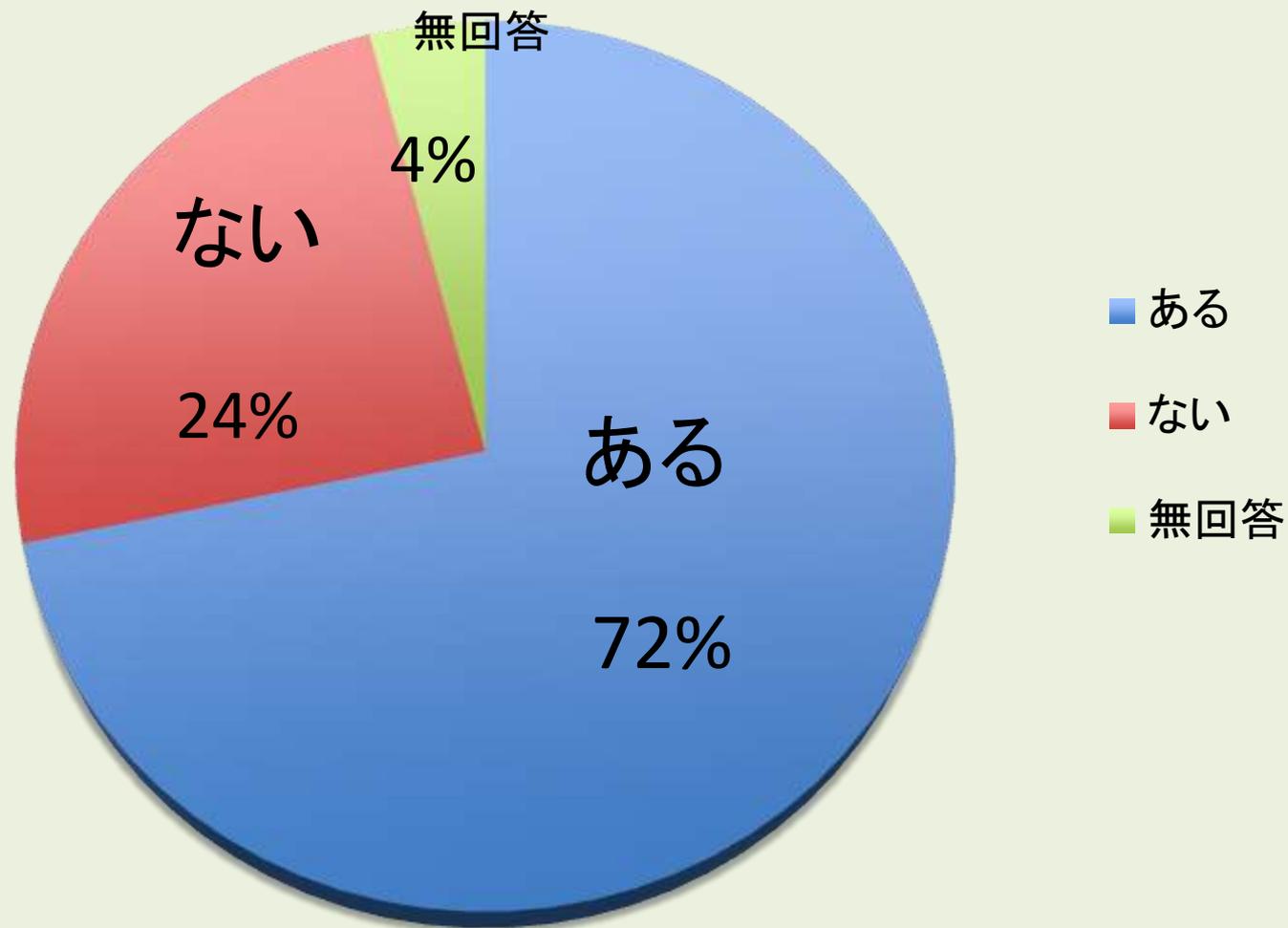


図5-2 お口の健康について困っていること

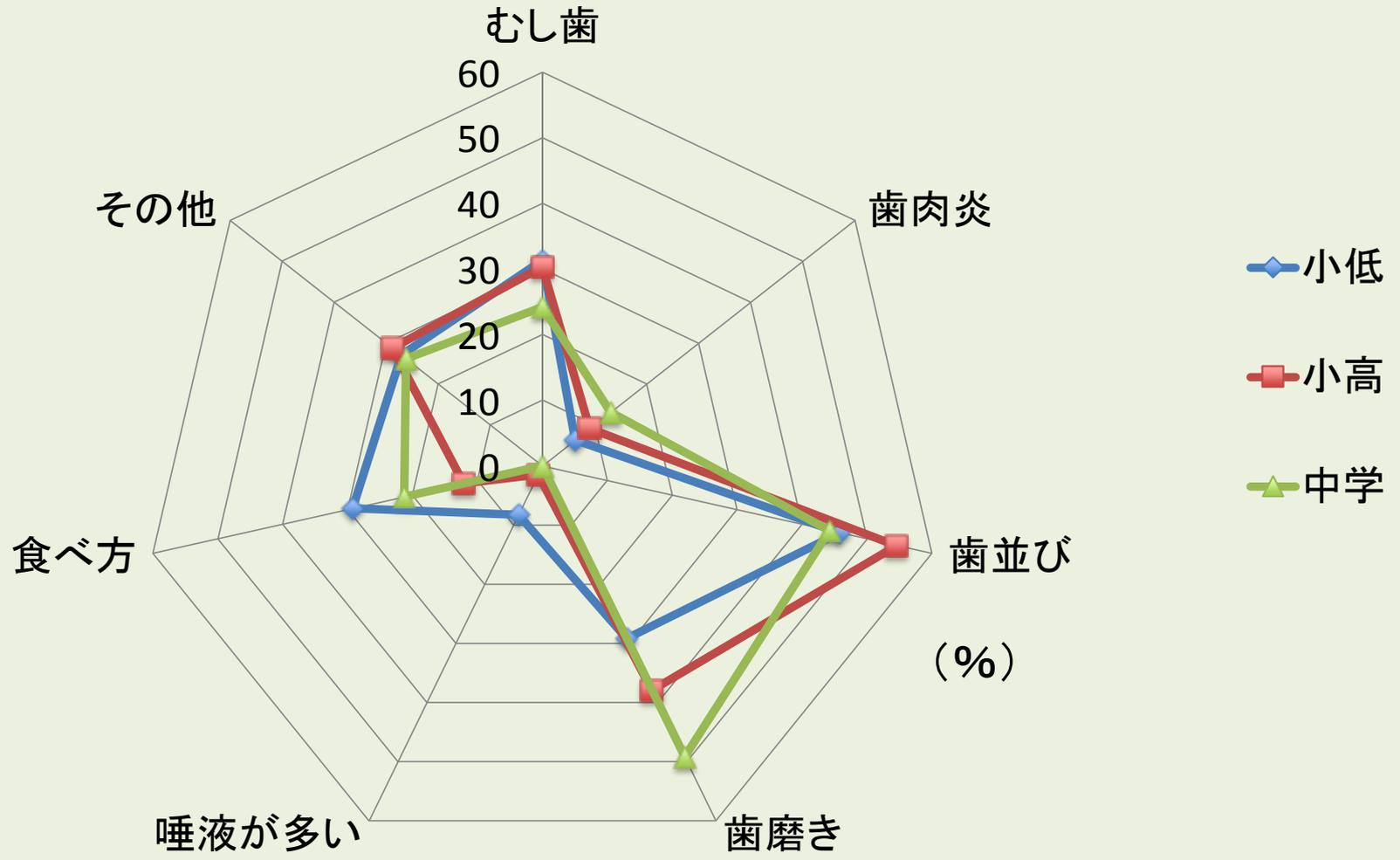


図6-1 かかりつけ歯科医について

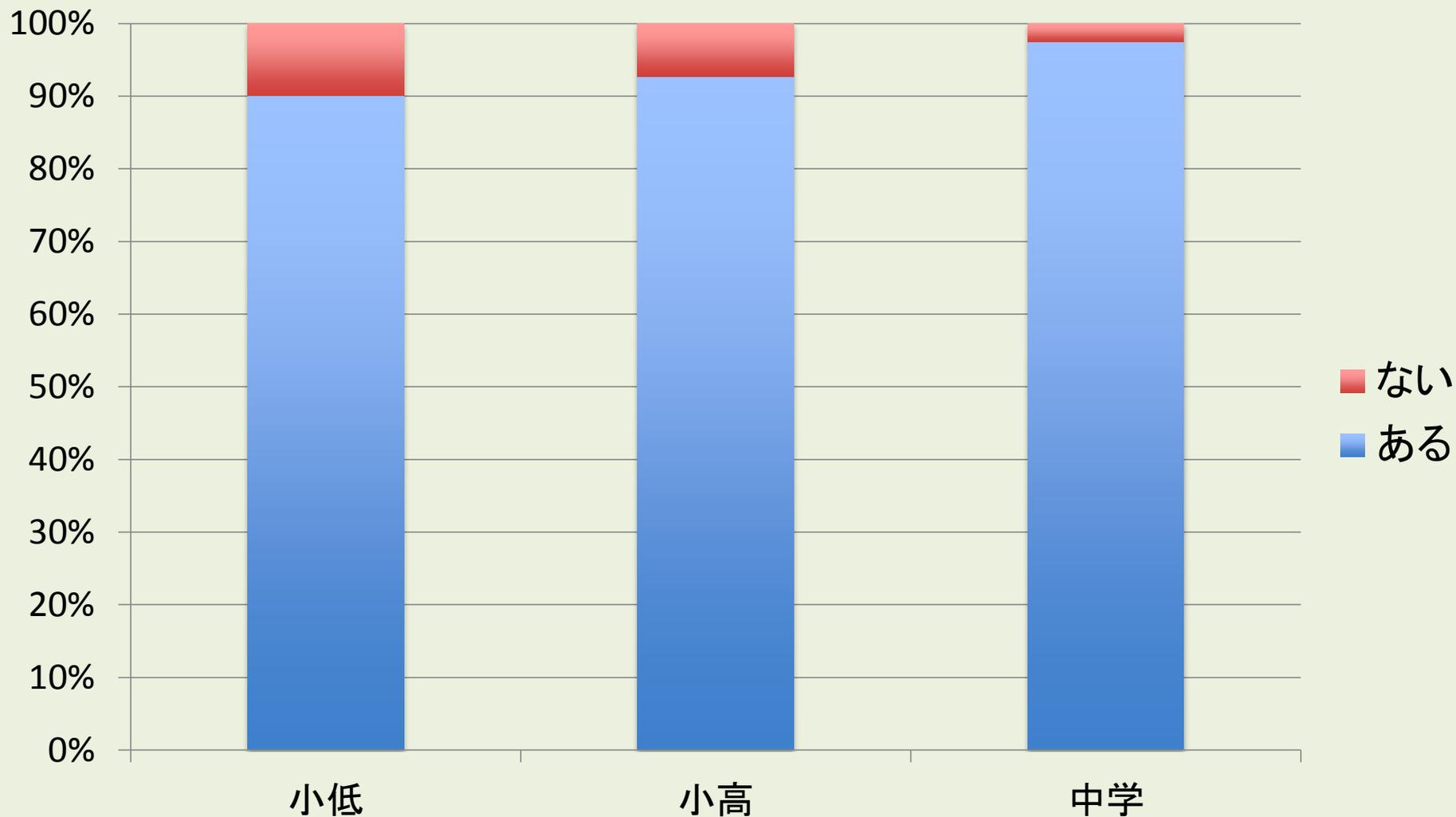


図6-2 かかりつけ歯科医 への受診状況

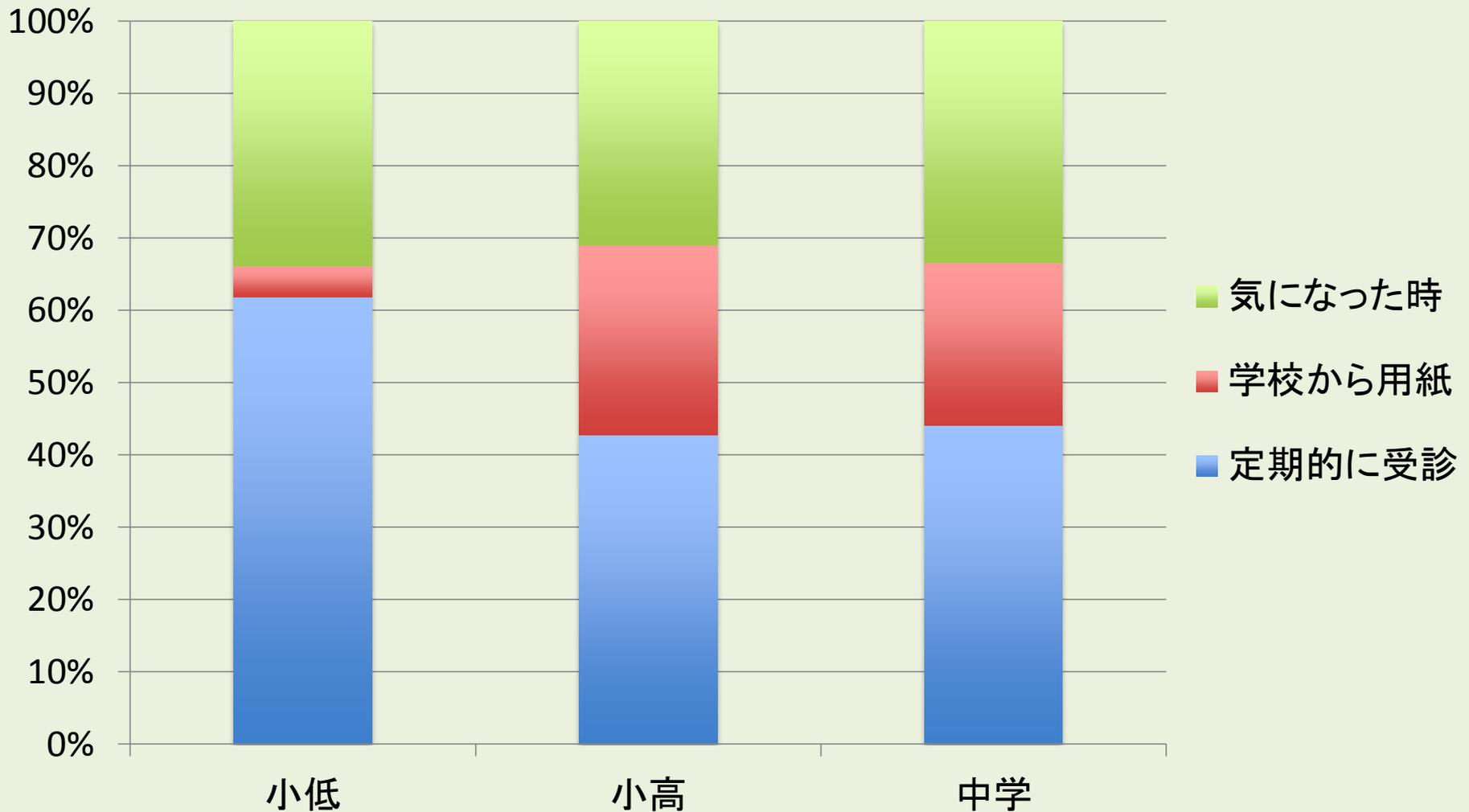


図7 起床時間

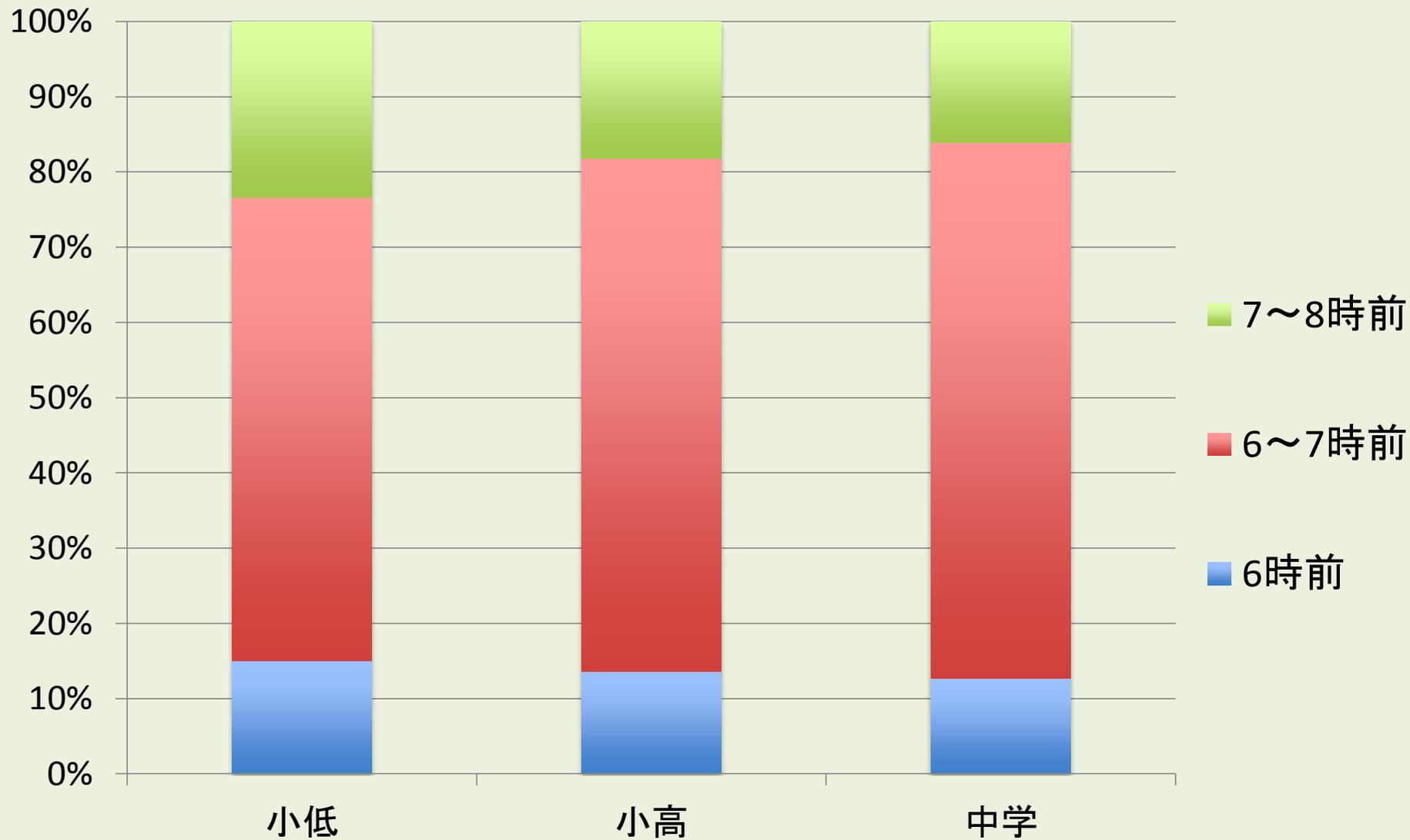


図8 就寝時間

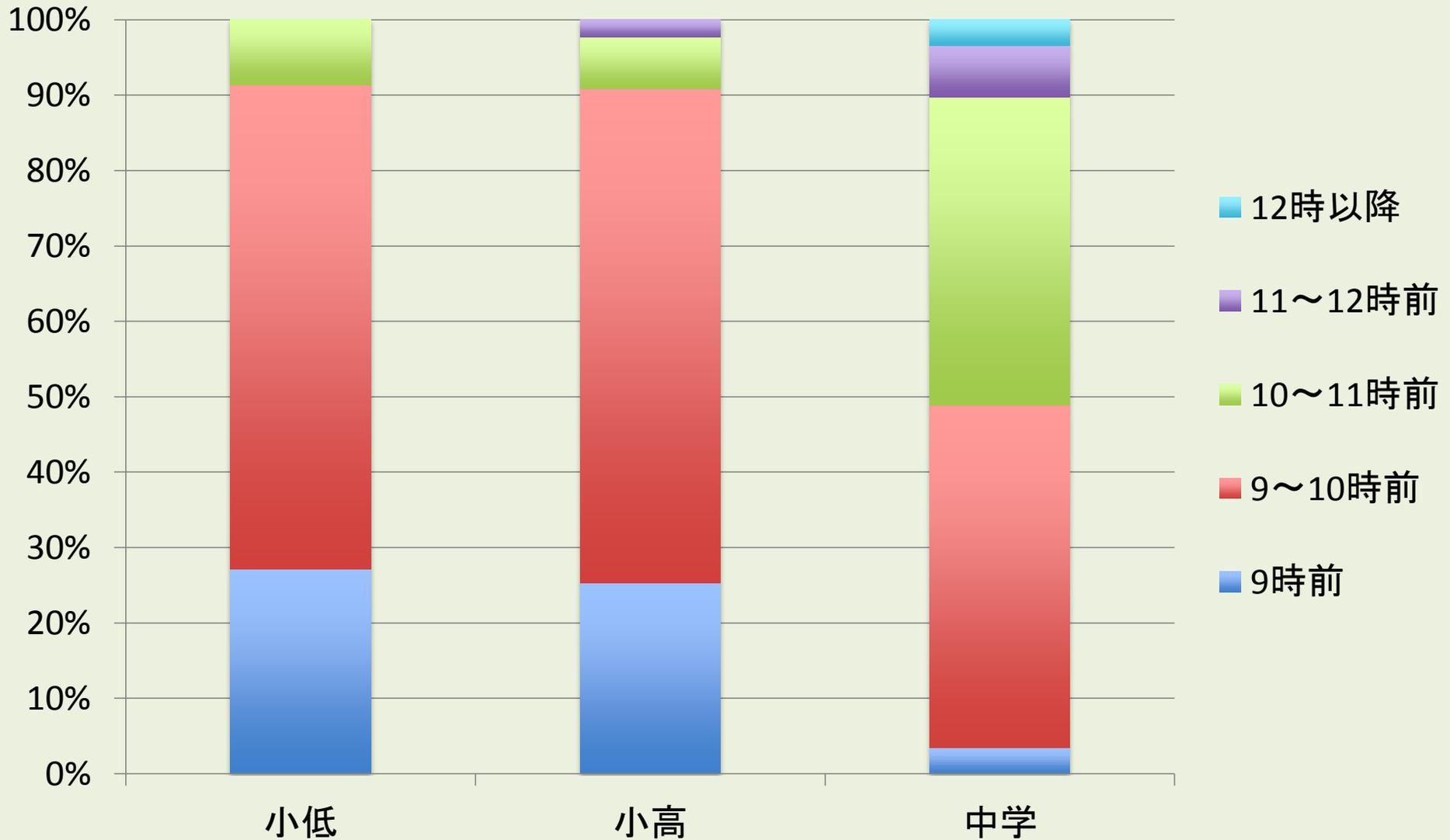


図9 朝食の喫食状況

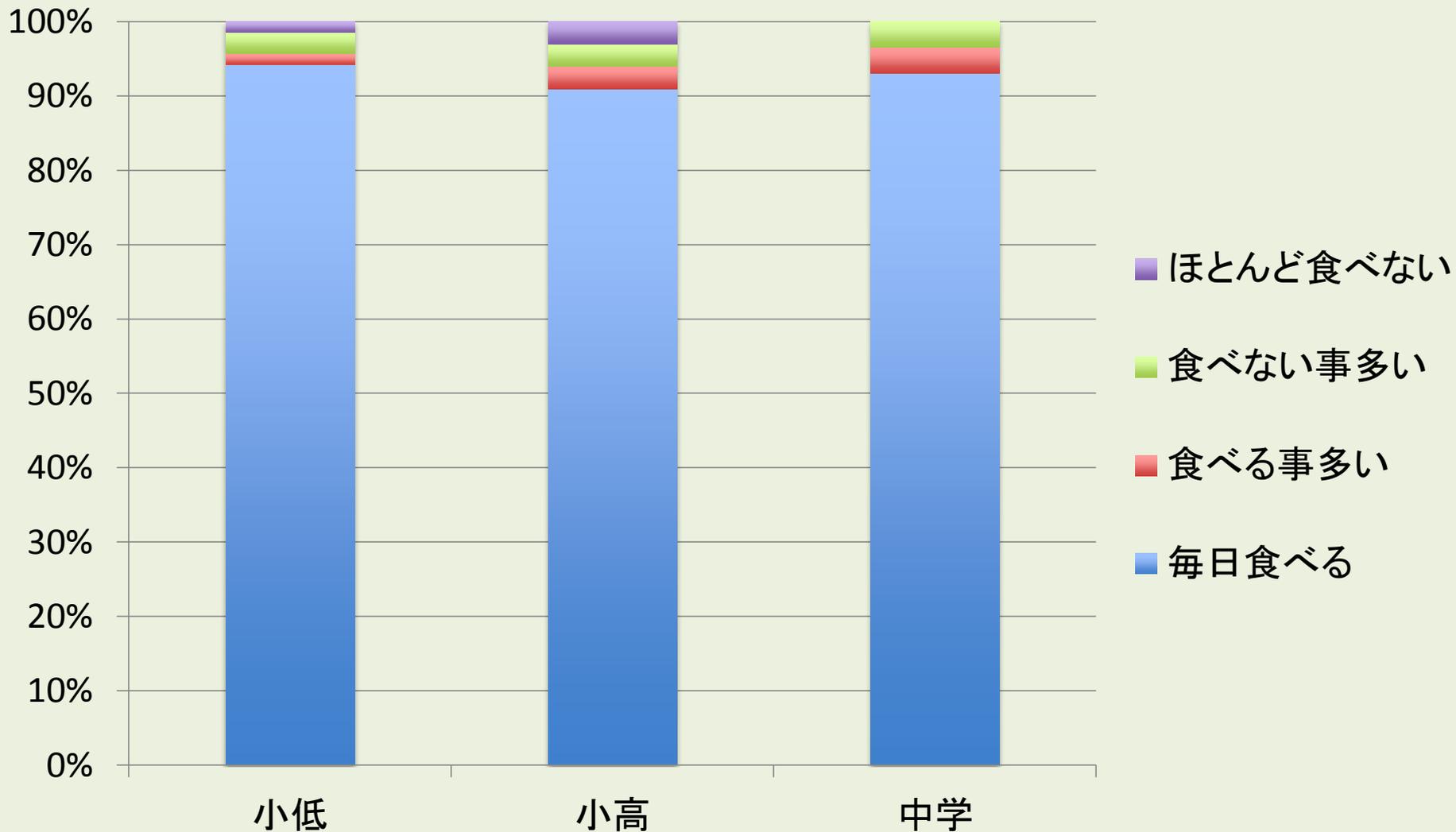


図10 朝食の主食

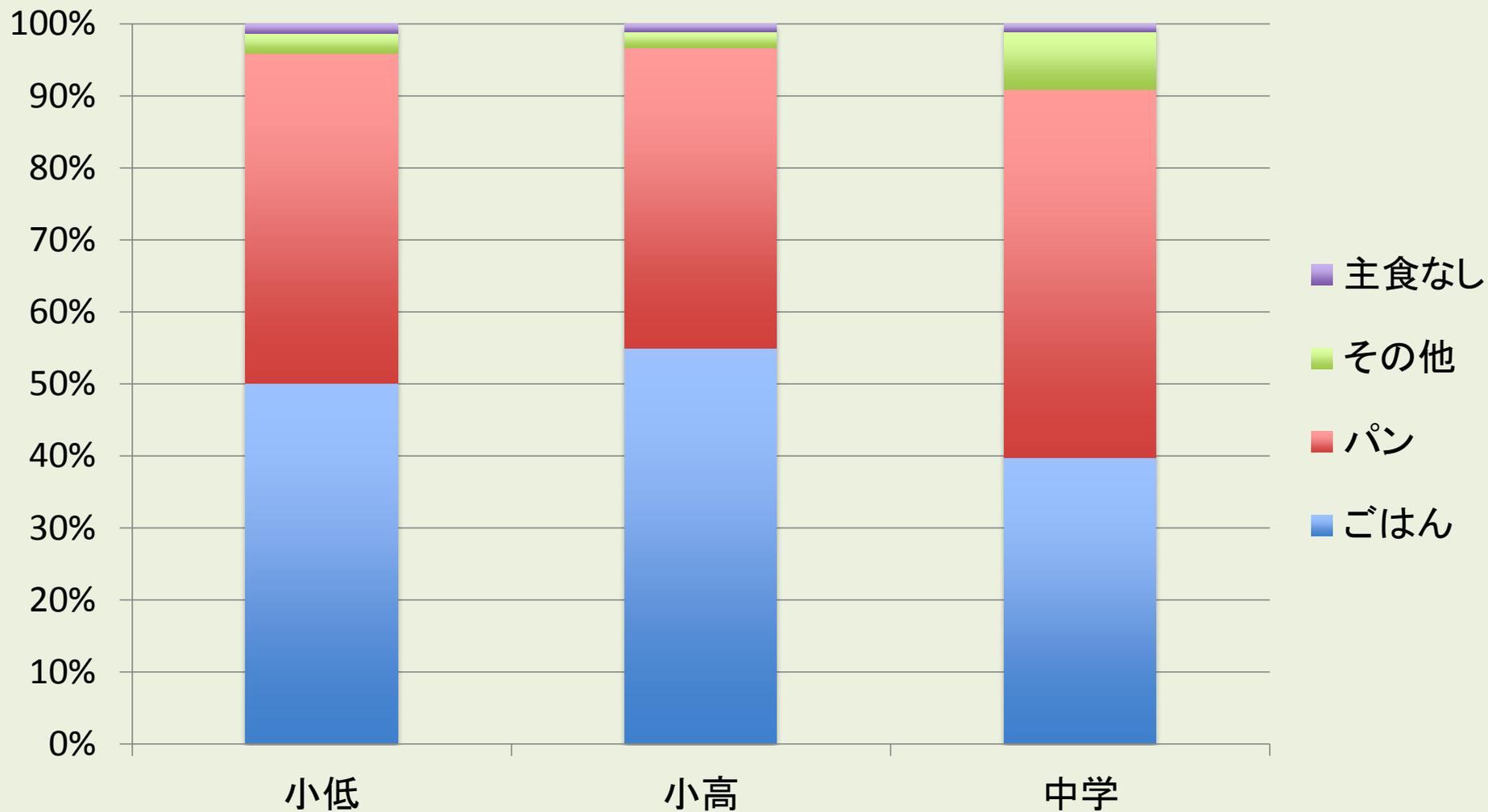


図11-1 朝の水分摂取について

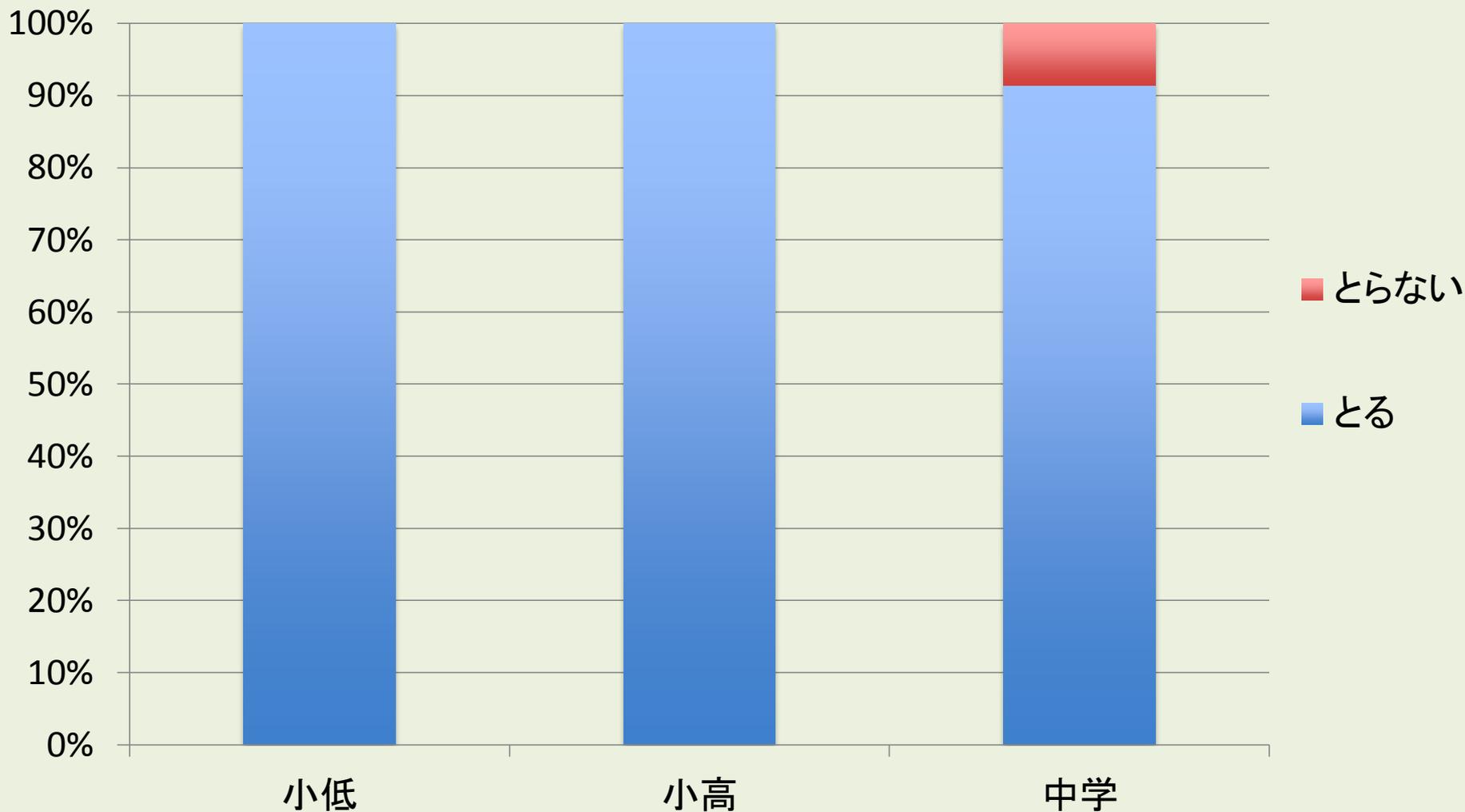


図11-2 朝の水分摂取内容

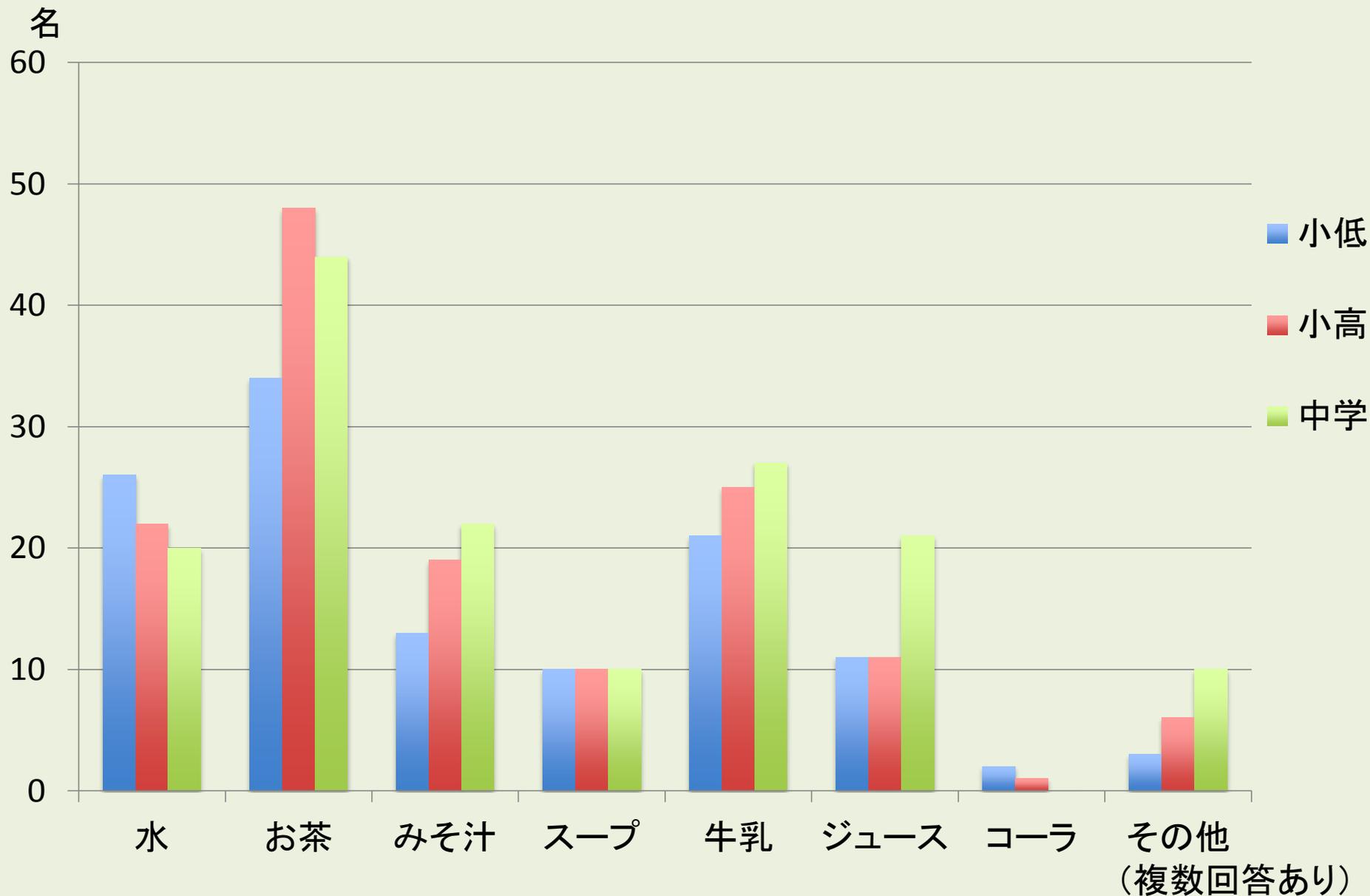


図12-1 寝る前の水分摂取

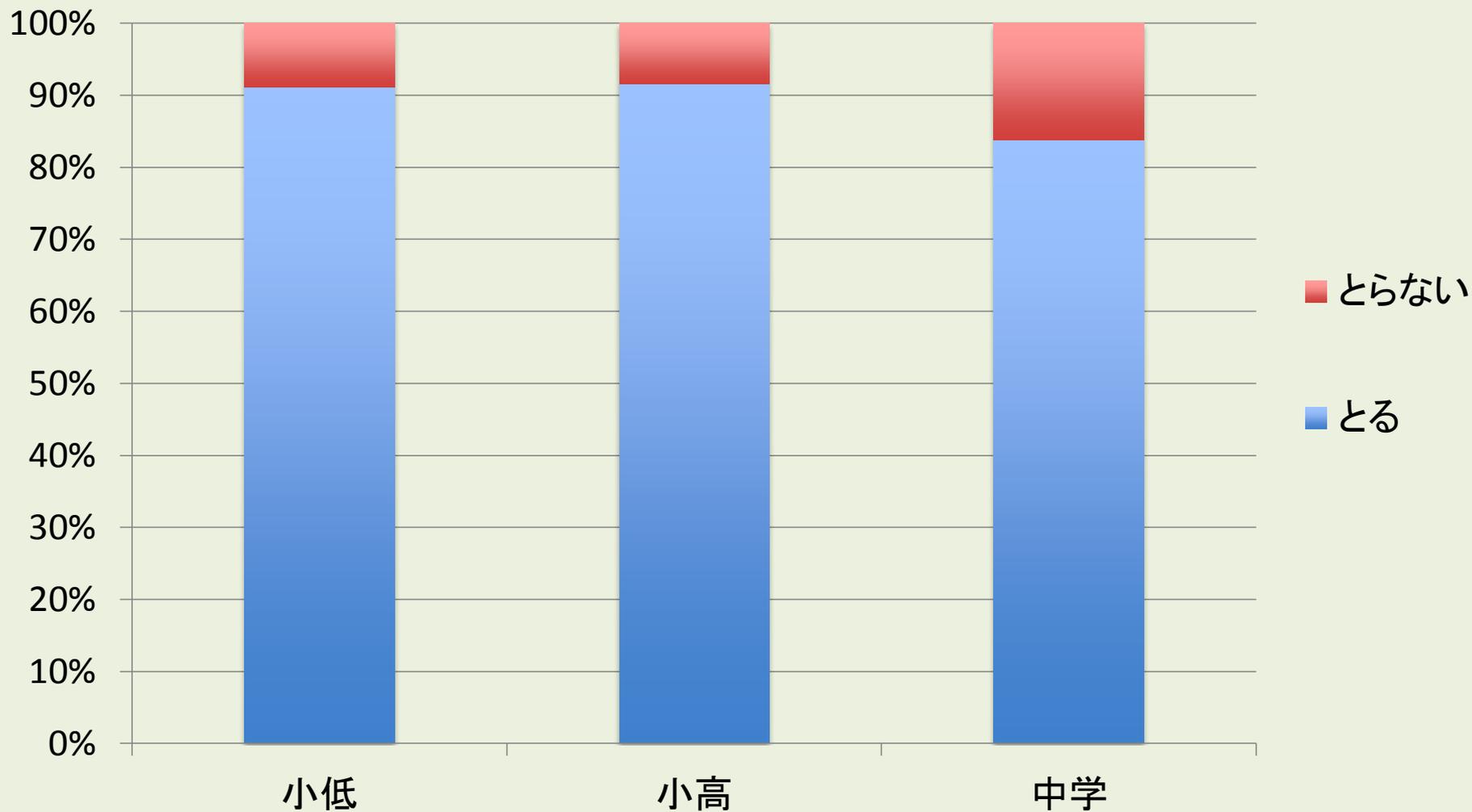
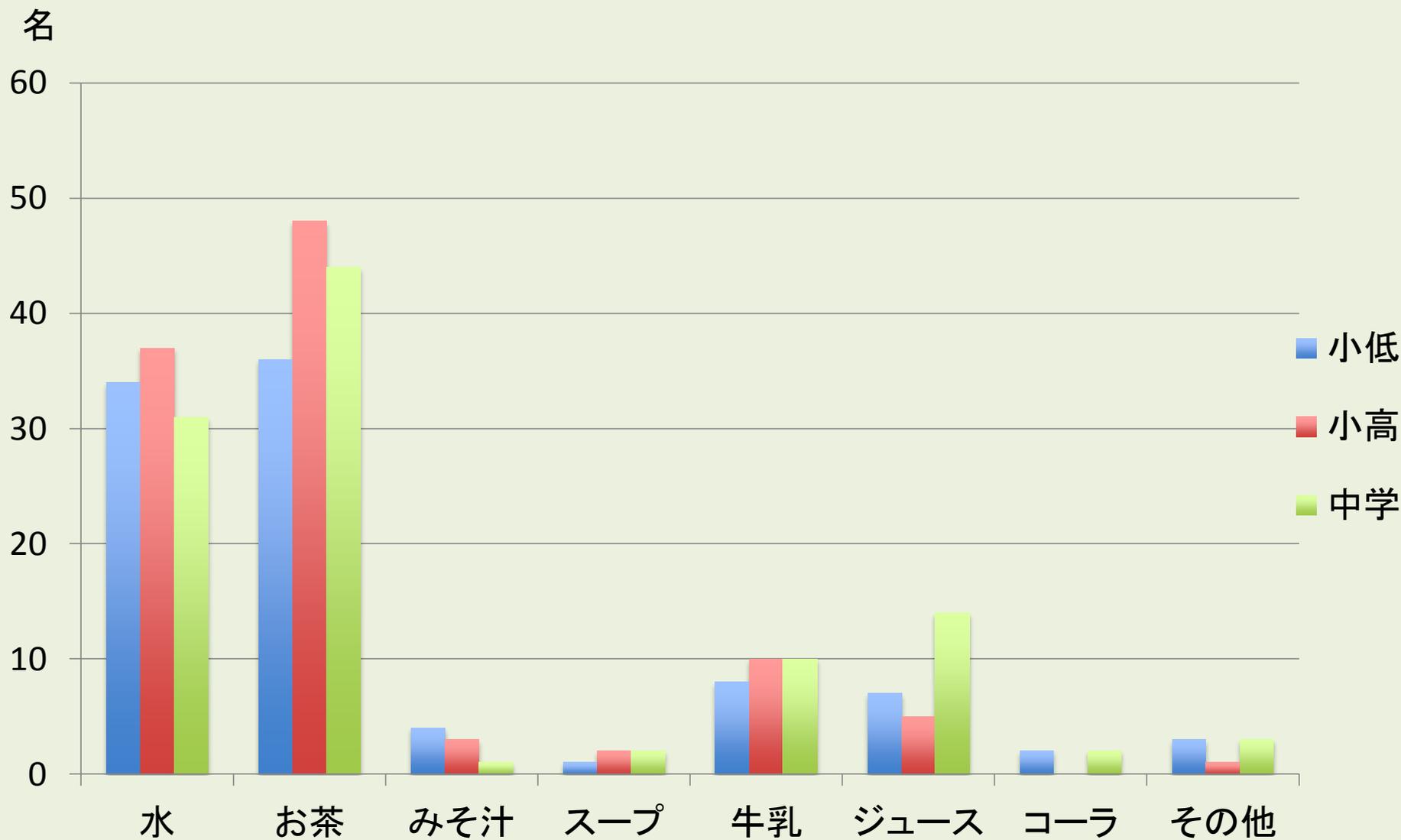


図12-2 寝る前の水分摂取内容



(複数回答あり)

図13 帰宅後のおやつについて

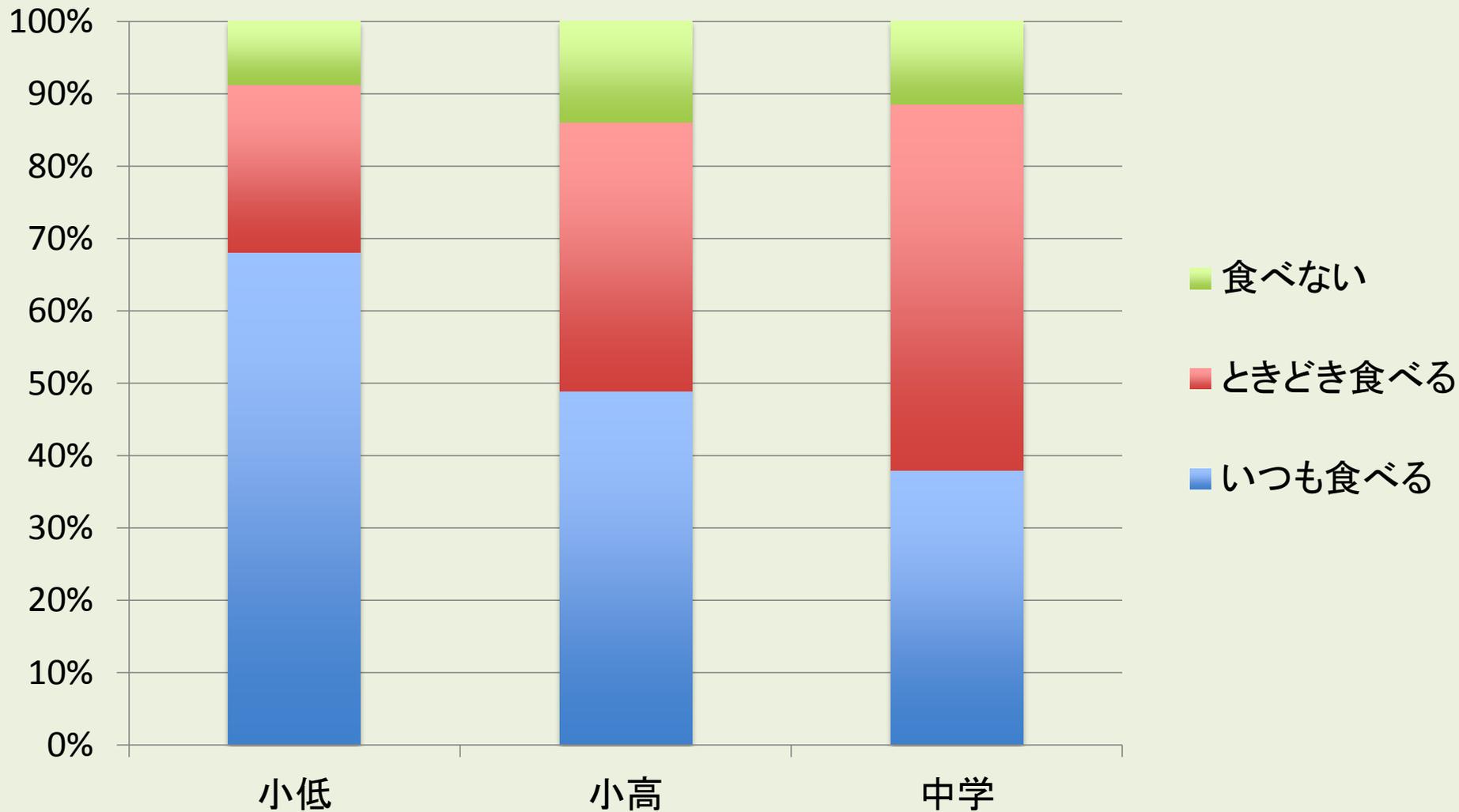


図14 おやつの種類

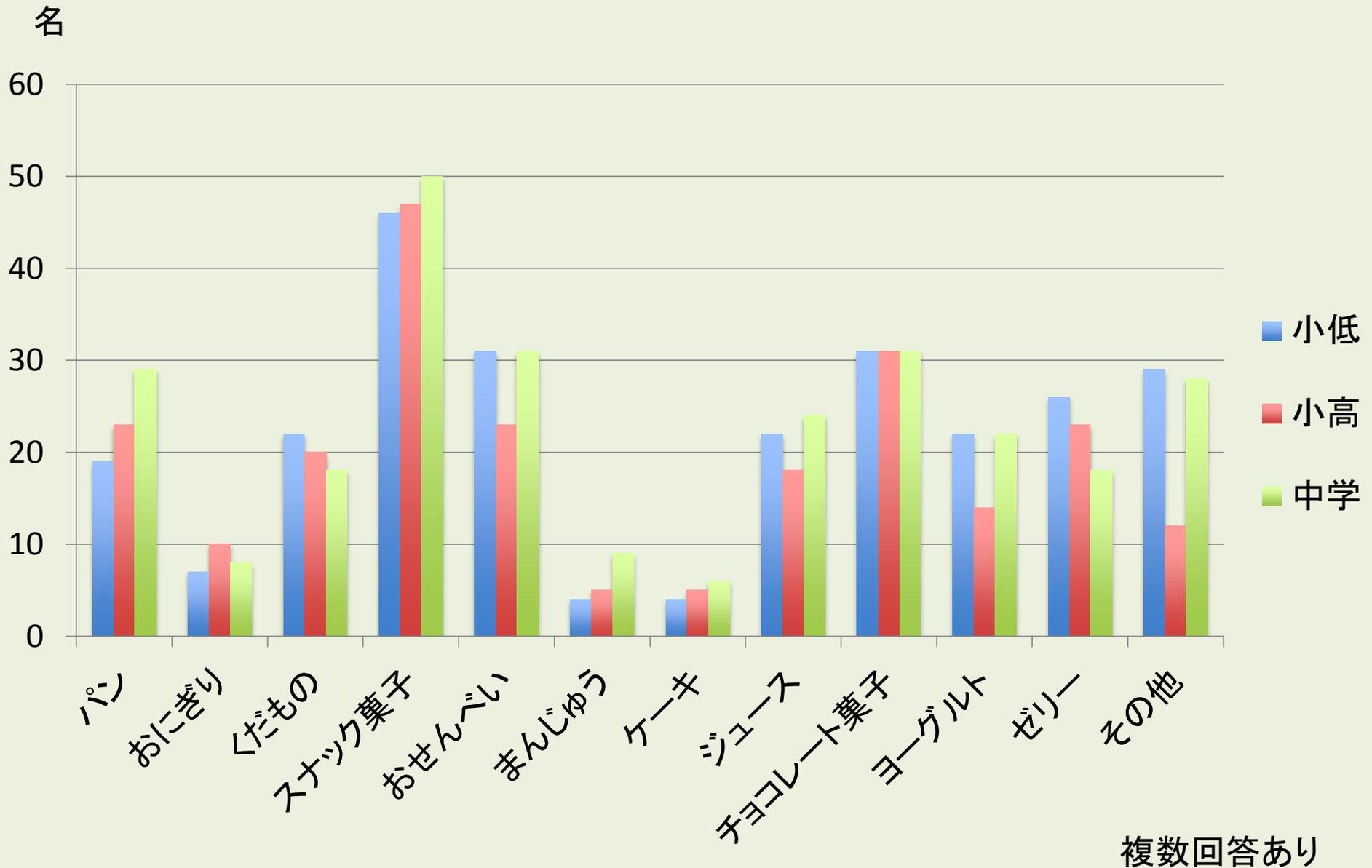


図15 夕食の保護者との摂取状況

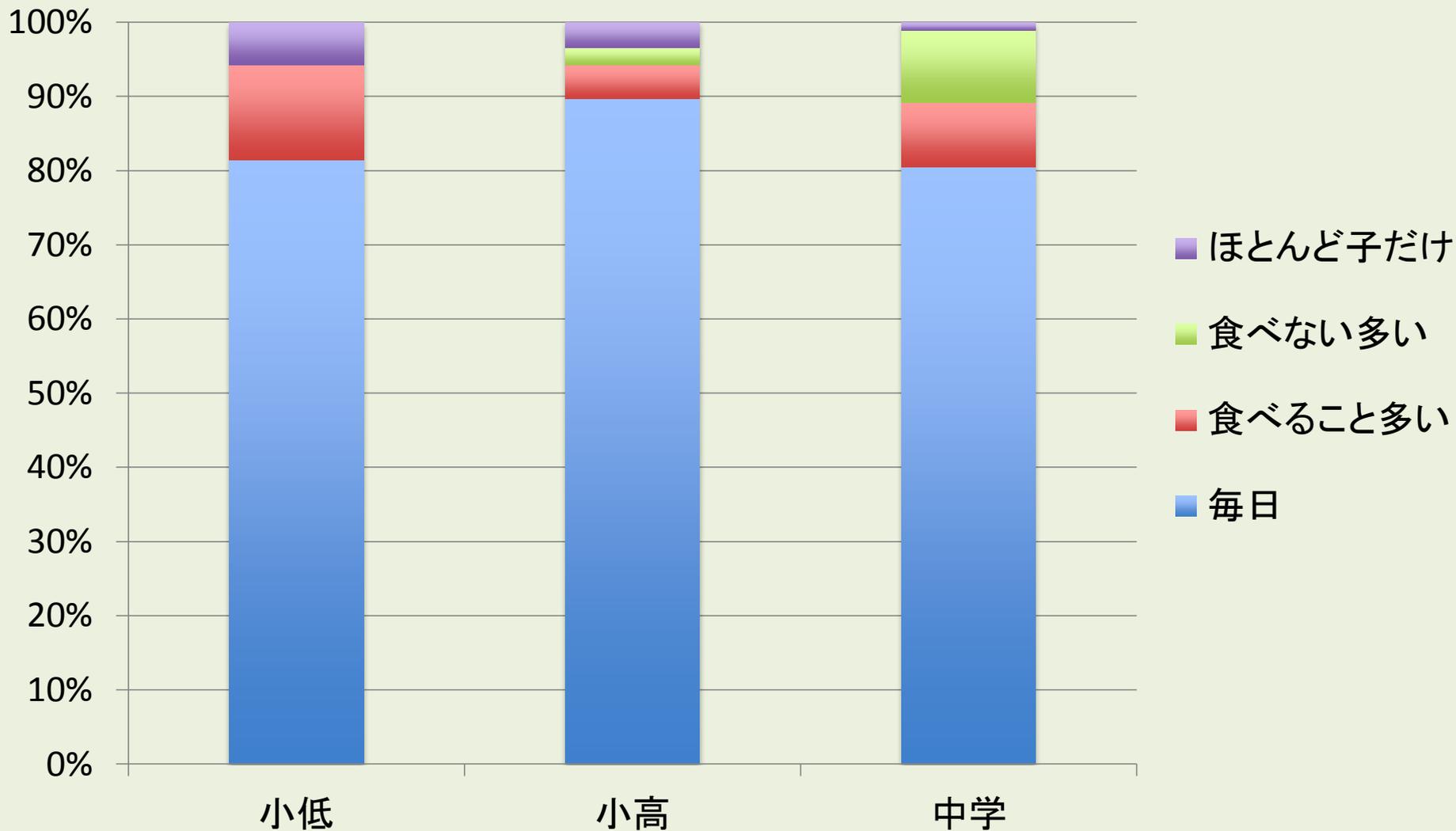
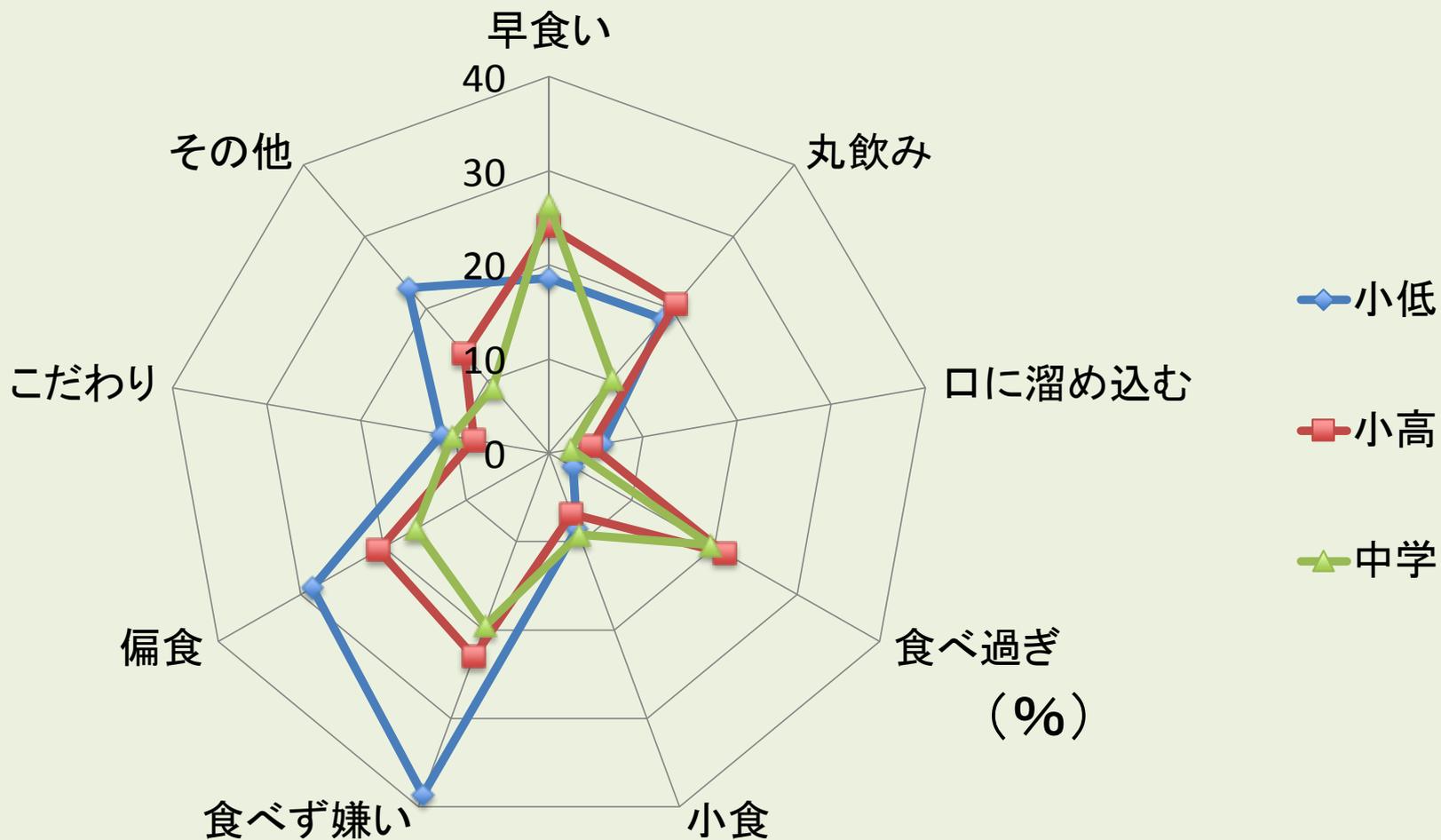


図16 食事でお困りのこと



窒息事故例の主な食品

【主な原因食品の例】

消防調査(432例)

救命救急センター(371例)

1位	もち	77例	91例
2位	ご飯(おにぎり含む)	61例	28例
3位	パン	47例	43例
4位	粥	11例	11例
5位	だんご	8例	15例
6位	あめ	22例	6例
7位	カップ入りゼリー	8例	3例

(「食品による窒息の現状把握と原因分析」より)

考察

1. **歯磨き**に関しては、1日1回は歯磨きが出来ていた。また、学年があがるにつれ、本人による歯磨きの割合が増えていたことから、日常生活習慣として**歯磨き行動は獲得されている**と考えられた。
2. **食習慣**については“早寝、早起き、朝ご飯”という食育の観点から、ほぼ**生活リズムは安定**してる生徒が多いと思われた。**おやつ**については、お菓子系の摂取が増えているため、**間食指導**が必要と考えられた。

考察

3. 窒息を招きやすい食べ方である、早食い、丸飲み等で困っているという回答が少なくなかったことから、家庭での食事のみならず、学校での給食の時も介助者の見守りや援助が必要であり、さらに、できるだけ小学校低学年から食事指導をしていくことが必要と思われた。

まとめ

特別な支援を要する児童生徒の歯科保健指導に際しては、**児童生徒本人、保護者、担任、養護教諭、学校歯科医、かかりつけ歯科医等が連携**をとりながら行われていくことが望ましい。



ご清聴ありがとうございました